

業務及び財産の状況に関する説明書

【平成 29 年 3 月期】

この説明書は、金融商品取引法第 46 条の 4 の規定に基づき、全ての営業所又は事務所に備え置き、公衆の縦覧に供するために作成したものです。

あかつき証券株式会社

(注) 本説明書中の記載金額等は、表示単位未満を切り捨てております。

I. 当社の概況及び組織に関する事項

1. 商号

あかつき証券株式会社 (Akatsuki Securities, Inc.)

2. 登録年月日 (登録番号)

平成 19 年 9 月 30 日 (関東財務局長 (金商) 第 67 号)

3. 沿革及び経営の組織

(1) 会社の沿革

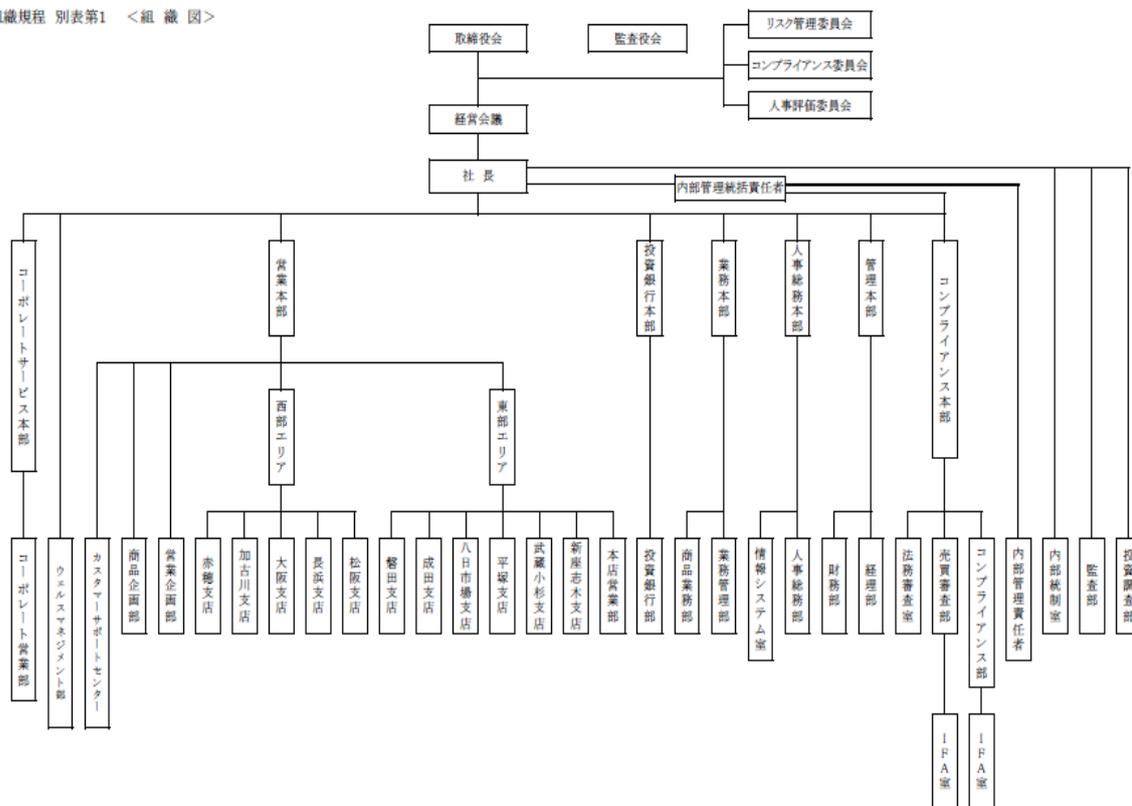
年 月	沿 革
大正 7 年 10 月	10 月 18 日株式会社黒川商店を大阪市東区北久太郎町三丁目 29 番地に資本金 300 万円にて設立する。
昭和 23 年 10 月	証券取引法に基づく証券業者として登録する。
24 年 5 月	大阪証券取引所の正会員となる。
27 年 12 月	日米証券株式会社を吸収合併、資本金 2,000 万円とする。
42 年 6 月	商号を黒川証券株式会社に変更する。
43 年 4 月	改正証券取引法に基づく免許を取得し、自己売買業務、委託売買業務、売りさばき業務の免許を受ける。
52 年 7 月	木徳証券株式会社と対等合併し、資本金 2 億 200 万円となり東京証券取引所、大阪証券取引所の正会員となり、黒川木徳証券株式会社と商号を変更する。
平成 10 年 12 月	改正証券取引法に基づく証券業者として登録する。
16 年 7 月	洗陽フューチャーズ株式会社に第三者割当増資を行い同社の子会社となり、資本金 2,065,995 千円とする。
19 年 7 月	外為 FX 会社である株式会社アイビックジェイピードットコム(旧 イー・フォレックス株式会社)の全株式を取得し、完全子会社とする。
19 年 9 月	金融商品取引法に基づく第一種金融商品取引業者として登録する。
21 年 3 月	外為 FX 会社であるイー・フォレックス株式会社(現 株式会社アクワイアモバイル)の全株式を譲渡する。
22 年 10 月	親会社である黒川木徳フィナンシャルホールディングス株式会社(現株式会社あかつき本社)の完全子会社となる。
23 年 8 月	商号をあかつき証券株式会社に変更する。
23 年 10 月	金融商品取引法に基づく第二種金融商品取引業者として登録する。
24 年 6 月	本社を東京都中央区日本橋小舟町に移転する。

(2) 経営の組織

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

当社の経営組織の概要は、以下のとおりであります。

組織規程 別表第1 <組織図>



4. 株式の保有数の上位 10 位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

氏名又は名称	保有株式数(千株)	割合(%)
株式会社あかつき本社	39,500	100.00

5. 役員の名

(平成 29 年 6 月 30 日現在)

役職名	氏名	代表権の有無	常勤・非常勤の別
代表取締役社長	工藤英人	有	常勤
取締役	上市園悟	無	常勤
取締役	小澤清	無	常勤
取締役	八代幹雄	無	常勤
取締役	加藤高志	無	常勤
取締役	大塚峰昭	無	常勤
取締役	永嶋保宏	無	常勤
取締役	島根秀明	無	常勤
監査役	横田和史	無	常勤
監査役	小西克憲	無	常勤
監査役	横山秀光	無	非常勤
監査役	大久保暁彦	無	非常勤

(注) 監査役 横山秀光氏及び大久保暁彦氏は、会社法第 2 条第 16 号に定める社外監査役であります。

6. 政令で定める使用人の氏名

(1) 金融商品取引業に関し、法令等を遵守させるための指導に関する業務を統括する者の氏名

(平成 29 年 6 月 30 日現在)

氏名	役職名
板東宏和	執行役員コンプライアンス本部長

(2) 投資助言業務(金融商品取引法(以下「法」という。)第 28 条第 6 項に規定する投資助言業務をいう。)又は投資運用業(同条第 4 項に規定する投資運用業をいう。)に関し、助言又は運用(その指図を含む。)を行う部門を統括する者の氏名

該当事項はありません。

(3) 投資助言・代理業(法第 28 条第 3 項に規定する投資助言・代理業をいう。)に関し、法第 29 条の 2 第 1 項第 6 号の営業所又は事務所の業務を統括する者の氏名

該当事項はありません。

7. 業務の種別

(1) 第一種金融商品取引業

(金融商品取引法第 28 条第 1 項第 1 号、同 3 号ロ、同 3 号ハに掲げる行為に係る業務及び有価証券等管理業務)

- ①有価証券の売買（デリバティブ取引に該当するものを除く、以下同じ。）、市場デリバティブ取引又は外国市場デリバティブ取引
- ②有価証券の売買、市場デリバティブ取引又は外国市場デリバティブ取引の媒介、取次ぎ又は代理
- ③取引所金融商品市場における有価証券の売買又は市場デリバティブ取引の委託の媒介、取次ぎ又は代理
- ④外国金融商品市場における有価証券の売買又は外国市場デリバティブ取引の委託の媒介、取次ぎ又は代理
- ⑤有価証券の引受け
- ⑥有価証券の売出し又は特定投資家向け売付け勧誘等
- ⑦有価証券の募集若しくは売出しの取扱い又は私募若しくは特定投資家向け売付け勧誘等の取扱い
- ⑧有価証券取引等又はデリバティブ取引に関して、顧客からの金銭又は証券若しくは証券の預託を受け入れること
- ⑨社債、株式等の振替に関する法律第 2 条第 1 項に規定する社債等の振替を行うための振替口座の開設及び振替

(2) 第二種金融商品取引業（金融商品取引法第 28 条第 2 項）

(3) 金融商品取引業付随業務（金融商品取引法第 35 条第 1 項）

- ①有価証券の貸借業務
- ②信用取引に付随する金銭の貸付業務
- ③保護預り有価証券担保貸付業務
- ④有価証券に関する顧客の代理業務
- ⑤受益証券に係る収益金、償還金又は解約金の支払いに係る代理業務
- ⑥投資証券等に係る金銭の分配、払戻金若しくは残余財産の分配又は利息若しくは償還金の支払に係る代理業務
- ⑦累積投資契約の締結業務
- ⑧有価証券に関連する情報の提供又は助言業務
- ⑨他の金融商品取引業者等の業務の代理
- ⑩他の事業者の事業の譲渡、合併、会社の分割、株式交換若しくは株式移転に関する相談に応じ、又はこれらに関し仲介を行う業務。

- ⑪他の事業者の経営に関する相談に応じる業務。
- ⑫譲渡性預金その他金銭債権（有価証券に該当するものを除く。）の売買又はその媒介、取次ぎ若しくは代理に係る業務
- ⑬前各号のほか金融商品取引業に付随する行為

8. 本店その他の営業所又は事務所の名称及び所在地

(平成 29 年 6 月 30 日現在)

名 称	所 在 地
本 店	〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町 8-1
平 塚 支 店	〒254-0043 神奈川県平塚市紅谷町 17-1
武蔵小杉支店	〒211-0063 神奈川県川崎市中原区小杉町 3-1501-1
新座志木支店	〒352-0001 埼玉県新座市東北 2-34-20
八日市場支店	〒289-2144 千葉県匝瑳市八日市場イ-327-5
成 田 支 店	〒286-0033 千葉県成田市花崎町 800-6
磐 田 支 店	〒438-0073 静岡県磐田市二之宮東 17-1
長 浜 支 店	〒526-0021 滋賀県長浜市八幡中山町 464
松 阪 支 店	〒515-0017 三重県松阪市京町 508-1
大 阪 支 店	〒540-0026 大阪府大阪市中央区内本町 2-4-12
加 古 川 支 店	〒675-0064 兵庫県加古川市加古川町溝之口 788
赤 穂 支 店	〒678-0239 兵庫県赤穂市加里屋 59-1

9. 他に行っている事業の種類

- ①金地金の売買及び売買の媒介等の業務
- ②保険業法（平成 7 年法律第 105 号）第 2 条第 26 項に規定する保険募集
- ③自ら所有する不動産の賃貸に係る業務
- ④その行う業務に係る顧客に対し他の事業者のあっせん又は紹介を行う業務
- ⑤他の事業者の業務に関する広告又は宣伝を行う業務
- ⑥信託兼営金融機関が行う遺言執行及び遺産整理に係る契約締結の媒介

10. 苦情処理及び紛争解決の体制

業務の種別	苦情処理措置及び紛争解決措置
第一種金融商品取引業務	特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センターとの間で特定第一種金融商品取引業務に係る手続実施基本契約を締結する措置
第二種金融商品取引業務	金商法第 37 条の 7 第 1 項第 2 号ロに規定する苦情処理及び紛争解決措置として、証券・金融商品あっせん相談センターを利用する措置

11. 加入する金融商品取引業協会及び対象事業者となる認定投資者保護団体の名称

日本証券業協会

一般社団法人 金融先物取引業協会

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

12. 会員又は取引参加者となる金融商品取引所の名称又は商号

株式会社東京証券取引所

株式会社大阪取引所

13. 加入する投資者保護基金の名称

日本投資者保護基金

II. 業務の状況に関する事項

1. 事業の経過及びその成果

当事業年度（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで）における世界経済は、米国を中心とする先進国の成長率の低下の影響で、リーマンショック以降初めて世界経済成長率が 3%を割り込みましたが、アメリカ大統領選挙におけるトランプ氏の選出により、米国の長期金利等は上昇を見せております。また、国内経済においても、新興国経済等の海外経済の弱さや資源価格の低下等の動きが一服したことにより、企業の業況感も改善を見せ、生産面を中心に緩やかな回復基調が続いております。

4 月 1 日に 16,719 円 56 銭で始まった日経平均株価は、6 月にイギリスの EU 離脱問題の影響により下落し、14,864 円 01 銭の最安値を付けました。その後、1 月に大統領に就任するトランプ氏の経済政策への期待が 11 月以降の相場を大きく押し上げ、12 月には 19,000 円台を回復しました。しかし実際の就任以降は先行きへの不透明感が増して、最終的に当事業年度末の終値は 18,909 円 26 銭となりました。

このような市場環境の中、当社は顧客基盤の拡大と収益力の強化を図るべく各種の取り組みを行ってまいりました。顧客基盤の拡大につきましては、新規口座・NISA 口座の開設に向けた様々な施策を実施すると共に、マーケット環境・投資家ニーズに応じた各種セミナーの開催を行いました。また、以前より販売チャネルの多様化を図るための IFA（金融商品仲介業）ビジネスの強化の取り組みを行い、3 月末においては 49 社との契約を結んでおります。また、取引拡大を目的とする各種キャンペーン、投資信託積立（定時定額買付）サービス等、新たな機会の創出による収益力の強化につきましても、積極的に進めてまいりました。

以上の結果、営業収益は 2,928 百万円（前年度比 22.9%減）、営業利益は 26 百万円（同 95.2%減）、経常利益は 70 百万円（同 89.8%減）、当期純利益は 24 百万円（同 94.6%減）となりました。

当事業年度における業績の内訳は次のとおりです。

(1) 受入手数料

当事業年度の受入手数料は、1,799 百万円（前年度比 27.3%減）となりました。内訳は以下のとおりです。

[委託手数料]

委託手数料は国内株式売買代金の減少等により、1,287 百万円（同 21.6%減）となりました。

[引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料]

引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等手数料は、些少なながらも計上しました。

[募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料]

募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱い手数料は、投資信託の販売の減少等により、259 百万円（同 56.1%減）となりました。

[その他の受入手数料]

その他の受入手数料は、あかつき債の管理手数料の増加等により、249 百万円（同 2.9%増）となりました。

(2) トレーディング損益

当事業年度のトレーディング損益は、米国株式取引の取扱い減少が主要因となり、1,046 百万円（前年度比 11.3%減）となりました。

(3) 金融収支

当事業年度の金融収益は 83 百万円（前年度比 43.9%減）、金融費用は 34 百万円（同 15.0%減）となり、金融収支は 49 百万円（同 54.6%減）となりました。

(4) 販売費・一般管理費

販売費・一般管理費は、取引関係費、人件費の減少等により、2,867 百万円（同 10.9%減）となりました。

2. 業務の状況を示す指標

(1) 経営成績等の推移

(単位：百万円)

	平成 27 年 3 月期	平成 28 年 3 月期	平成 29 年 3 月期
資本金	2,834	3,067	3,067
発行済株式総数	35,659 千株	39,500 千株	39,500 千株
営業収益	4,849	3,802	2,928
(受入手数料)	2,717	2,474	1,799
((委託手数料))	1,538	1,641	1,287
((引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料))	—	0	1
((募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱い手数料))	894	590	259
((その他の受入手数料))	285	242	249
(トレーディング損益)	1,995	1,179	1,046
((株券等))	1,101	316	303
((債券等))	893	862	742
((その他))	—	—	—
純営業収益	4,787	3,762	2,894
経常利益又は経常損失(△)	1,258	687	70
当期純利益又は当期純損失(△)	869	444	24

(2) 有価証券引受・売買等の状況

① 株券の売買高の推移

(単位：百万円)

	平成 27 年 3 月期	平成 28 年 3 月期	平成 29 年 3 月期
自 己	47,590	15,781	15,483
委 託	176,470	206,567	156,778
計	224,060	222,349	172,262

② 有価証券の引受け及び売出し並びに特定投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集、
 売出し及び私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取扱いの状況

(単位：百万円)

区 分	引受高	売出高	特定投資 家向け売 付け勧誘 等の総額	募集の 取扱高	売出しの 取扱高	私募の 取扱高	特定投資家 向け売付け 勧誘等の取 扱高
平成 27年 3月 期	株券	—	—	—	—	—	—
	国債証券	—	—	—	6	—	—
	地方債証券	—	—	—	—	—	—
	特殊債券	—	—	—	—	—	—
	社債券	—	—	—	4,300	—	—
	受益証券	—	—	—	69,659	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—
	合計	—	—	—	73,966	—	—
平成 28年 3月 期	株券	51	51	—	—	—	—
	国債証券	—	—	—	—	—	—
	地方債証券	—	—	—	—	—	—
	特殊債券	—	—	—	—	—	—
	社債券	—	—	—	3,900	—	—
	受益証券	—	—	—	57,748	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—
	合計	51	51	—	61,648	—	—
平成 29年 3月 期	株券	127	127	—	—	—	—
	国債証券	—	—	—	—	—	—
	地方債証券	—	—	—	—	—	—
	特殊債券	—	—	—	—	—	—
	社債券	—	—	—	4,000	—	—
	受益証券	—	—	—	44,545	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—
	合計	127	127	—	48,545	—	—

(3) その他業務の状況

(単位：百万円)

区分 \ 期別	平成 27 年 3 月期	平成 28 年 3 月期	平成 29 年 3 月期
建物の賃貸に係る業務	9	9	9
その他の業務	13	11	11

(4) 自己資本規制比率の状況

(単位：百万円)

	平成 27 年 3 月期	平成 28 年 3 月期	平成 29 年 3 月期
自己資本規制比率 (A/B×100)	420.4%	483.6%	515.6%
固定化されていない 自己資本(A)	4,618	4,878	4,504
リスク相当額(B)	1,098	1,008	873
市場リスク相当額	53	69	39
取引先リスク相当額	164	130	139
基礎的リスク相当額	879	808	695

(5) 使用人の総数及び外務員の総数

	平成 27 年 3 月期	平成 28 年 3 月期	平成 29 年 3 月期
使 用 人	179 人	167 人	162 人
(うち 外 務 員)	(164 人)	(159 人)	(159 人)

(注) うち外務員は、金融商品取引法第 64 条第 1 項の規定により、外務員登録原簿に登録している外務員数であります。

Ⅲ. 財産の状況に関する事項

1. 経理の状況

(1) 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	平成 28 年 3 月 31 日現在		平成 29 年 3 月 31 日現在	
	金 額		金 額	
(資産の部)				
流動資産				
現金及び預金		2,785		1,976
預託金		3,625		5,500
トレーディング商品		964		1,014
商品有価証券等	964		1,014	
信用取引資産		5,649		5,752
信用取引貸付金	5,550		5,614	
信用取引借証券担保金	98		138	
立替金		4		0
顧客への立替金	4		—	
その他の立替金	0		0	
短期差入保証金		165		202
短期貸付金		2		983
前払金		39		0
前払費用		24		43
未収入金		99		66
未収収益		40		94
繰延税金資産		1		28
その他の流動資産		—		—
貸倒引当金		—		—
流動資産計		13,402		15,663

(単位:百万円)

科 目	平成 28 年 3 月 31 日現在		平成 29 年 3 月 31 日現在	
	金 額		金 額	
固定資産				
有形固定資産 ※1		305		274
建物	132		115	
建設仮勘定	—		1	
器具備品	32		24	
有形リース資産	21		12	
土地	120		120	
無形固定資産		112		115
ソフトウェア	107		109	
電話加入権	5		5	
投資その他の資産		321		263
投資有価証券 ※2	163		137	
出資金	1		1	
従業員長期貸付金	8		7	
長期差入保証金	104		104	
長期前払費用	15		10	
その他	270		233	
貸倒引当金	△243		△231	
固定資産計		740		652
資産合計		14,142		16,316

(単位:百万円)

科 目	平成 28 年 3 月 31 日現在		平成 29 年 3 月 31 日現在	
	金 額		金 額	
(負債の部)				
流動負債				
トレーディング商品		11		52
商品有価証券等	11		52	
約定見返勘定		837		779
信用取引負債		1,839		4,218
信用取引借入金 ※2	1,667		3,957	
信用取引貸証券受入金	172		260	
有価証券担保借入金		1		0
有価証券貸借取引受入金	1		0	
預り金		3,497		4,869
顧客からの預り金	3,229		4,478	
その他の預り金	267		390	
受入保証金		549		592
リース債務		9		8
未払金		153		23
未払費用		82		105
未払法人税等		20		21
賞与引当金		19		27
株式給付引当金		9		11
短期借入金		1,000		—
前受収益		—		14
流動負債計		8,030		10,725
固定負債				
長期借入金		500		550
退職給付引当金		226		200
役員退職慰労引当金		13		13
資産除去債務		35		37
その他		177		138
固定負債計		953		939

(単位:百万円)

科 目	平成 28 年 3 月 31 日現在		平成 29 年 3 月 31 日現在	
	金 額		金 額	
特別法上の準備金				
金融商品取引責任準備金※5		37		19
特別法上の準備金計		37		19
負債合計		9,021		11,685

(単位:百万円)

科 目	平成 28 年 3 月 31 日現在		平成 29 年 3 月 31 日現在	
	金 額		金 額	
(純資産の部)				
株主資本				
資本金		3,067		3,067
資本剰余金				
資本準備金	1,349		1,349	
資本剰余金合計		1,349		1,349
利益剰余金				
利益準備金	161		0	
その他利益剰余金	523		214	
繰越利益剰余金	523		214	
利益剰余金合計		684		214
株主資本合計		5,101		4,631
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金	20		—	
評価・換算差額等合計		20		—
純資産合計		5,121		4,631
負債・純資産合計		14,142		16,316

(2) 損益計算書

(単位:百万円)

科 目	自 平成 27 年 4 月 1 日 至 平成 28 年 3 月 31 日		自 平成 28 年 4 月 1 日 至 平成 29 年 3 月 31 日	
	金 額		金 額	
営業収益				
受入手数料		2,474		1,799
委託手数料	1,641		1,287	
募集・売出し・特定投資家向け	0		1	
売付け勧誘等の取扱手数料	590		259	
その他の受入手数料	242		249	
トレーディング損益 ※1		1,179		1,046
金融収益 ※2		148		83
営業収益計		3,802		2,928
金融費用 ※3		40		34
純営業収益		3,762		2,894
販売費・一般管理費		3,216		2,867
取引関係費 ※4	598		463	
人件費 ※5	1,683		1,503	
不動産関係費 ※6	310		304	
事務費 ※7	420		397	
減価償却費	85		84	
租税公課 ※8	30		31	
その他 ※9	87		82	
営業利益又は営業損失		545		26
営業外収益		172		71
雑収入	172		60	
貸倒引当金戻入	—		11	
営業外費用		31		27
雑損失	7		4	
支払利息	22		23	
貸倒引当金繰入	1		—	
経常利益又は経常損失		687		70

(単位:百万円)

科 目	自 平成 27 年 4 月 1 日 至 平成 28 年 3 月 31 日		自 平成 28 年 4 月 1 日 至 平成 29 年 3 月 31 日	
	金 額		金 額	
特別利益		—		26
金融商品取引責任準備金戻入	—		20	
訴訟損失引当金戻入	—		6	
特別損失		25		47
訴訟損失引当金繰入	19		—	
合併関連費用	—		24	
その他	6		23	
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失(△)		661		49
法人税、住民税及び事業税		168		13
法人税等調整額		48		12
当期純利益又は当期純損失(△)		444		24

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金		
				別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,834	1,123	1,123	161	—	914	1,075
誤謬の訂正による累積的影響額	—	—	—	—	—	△50	△50
誤謬訂正後当期首残高	2,834	1,123	1,123	161	—	863	1,024
当事業年度中の変動額							
新株の発行	233	225	225	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	—	—	—	△784	△784
当期純利益	—	—	—	—	—	444	444
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額 (純額)	—	—	—	—	—	—	—
当事業年度中の変動額合計	233	225	225	—	—	△340	△340
当期末残高	3,067	1,349	1,349	161	—	523	684

	株主資本	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	5,032	—	—	2	5,035
誤謬の訂正による累積的影響額	△50	—	—	—	△50
誤謬訂正後当期首残高	4,982	—	—	2	4,984
当事業年度中の変動額					
新株の発行	459	—	—	—	459
剰余金の配当	△784	—	—	—	△784
当期純利益	444	—	—	—	444
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額 (純額)	—	20	20	△2	17
当事業年度中の変動額合計	118	20	20	△2	136
当期末残高	5,101	20	20	—	5,121

当事業年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	3,067	1,349	1,349	161	—	523	684
当事業年度中の変動額	—	—	—	—	—	—	—
利益準備金振替	—	—	—	△161	—	161	—
剰余金の配当	—	—	—	—	—	△493	△493
当期純利益	—	—	—	—	—	24	24
合併による増減	—	—	—	—	—	0	0
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額 (純額)	—	—	—	—	—	—	—
当事業年度中の変動額合計	—	—	—	△161	—	△308	△469
当期末残高	3,067	1,349	1,349	—	—	214	214

	株主資本	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	5,101	20	20	—	5,121
当事業年度中の変動額	—	—	—	—	—
利益準備金振替	—	—	—	—	—
剰余金の配当	△493	—	—	—	△493
当期純利益	24	—	—	—	24
合併による増減	0	—	—	—	0
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額 (純額)	—	△20	△20	—	△20
当事業年度中の変動額合計	△469	△20	△20	—	△489
当期末残高	4,631	—	—	—	4,631

注記事項

(貸借対照表関係)

平成 28 年 3 月 31 日現在	平成 29 年 3 月 31 日現在
<p>※1 有形固定資産より控除した減価償却累計額 604 百万円</p>	<p>※1 有形固定資産より控除した減価償却累計額 624 百万円</p>
<p>※2 担保に供している資産は、別表記載のとおり であります。</p>	<p>※2 担保に供している資産は、別表記載のとおり であります。</p>
<p>※3 担保等として差入をした有価証券の時価額 (トレーディング商品を除く)</p>	<p>※3 担保等として差入をした有価証券の時価額 (トレーディング商品を除く)</p>
<p>(1) 信用取引貸証券 183 百万円</p>	<p>(1) 信用取引貸証券 277 百万円</p>
<p>(2) 信用取引借入金の本担保証券 1,831 百万円</p>	<p>(2) 信用取引借入金の本担保証券 4,018 百万円</p>
<p>(3) 差入保証金代用有価証券 1,693 百万円</p>	<p>(3) 差入保証金代用有価証券 1,623 百万円</p>
<p>※4 担保等として差入を受けた有価証券の時価額</p>	<p>※4 担保等として差入を受けた有価証券の時価額</p>
<p>(1) 信用取引貸付金の本担保証券 4,950 百万円</p>	<p>(1) 信用取引貸付金の本担保証券 5,332 百万円</p>
<p>(2) 信用取引借証券 183 百万円</p>	<p>(2) 信用取引借証券 277 百万円</p>
<p>(3) 受入証拠金代用有価証券 (再担保に供する 旨の同意を得たものに限る。) 207 百万円</p>	<p>(3) 受入証拠金代用有価証券 (再担保に供する 旨の同意を得たものに限る。) 37 百万円</p>
<p>(4) 受入保証金代用有価証券 (再担保に供する 旨の同意を得たものに限る。) 6,640 百万円</p>	<p>(4) 受入保証金代用有価証券 (再担保に供する 旨の同意を得たものに限る。) 5,334 百万円</p>
<p>※5 特別法上の準備金の計上根拠 金融商品取引責任準備金 金融商品取引法第 46 条の 5 及び「金融商品取 引業等に関する内閣府令」第 175 条</p>	<p>※5 特別法上の準備金の計上根拠 同左</p>

(別表)

担保に供している資産

(単位：百万円)

区 分	担保に供している資産		被担保債務	
	投資その他の資産	計	債務等の種類	期末残高
	投資有価証券			
平成 28 年 3 月 31 日 現在	—	—	信用取引借入金	1,667
平成 29 年 3 月 31 日 現在	—	—	信用取引借入金	3,957

(損益計算書関係)

(自 平成 27 年 4 月 1 日 至 平成 28 年 3 月 31 日)	(自 平成 28 年 4 月 1 日 至 平成 29 年 3 月 31 日)
※1 トレーディング損益の内訳 株券 316 百万円 債券 862 百万円 その他 <u> - 百万円</u> 計 1,179 百万円 ※2 金融収益の内訳 信用取引収益 134 百万円 有価証券貸借取引収益 0 百万円 受取配当金 - 百万円 受取債券利子 1 百万円 受取利息(預金) 0 百万円 その他の金融収益 <u> 12 百万円</u> 計 148 百万円 ※3 金融費用の内訳 信用取引費用 33 百万円 有価証券貸借取引費用 0 百万円 支払債券利子 - 百万円 支払利息 <u> 6 百万円</u> 計 40 百万円 ※4 取引関係費の内訳 支払手数料 276 百万円 取引所・協会費 25 百万円 通信・運送費 185 百万円 旅費・交通費 44 百万円 広告宣伝費 33 百万円 交際費 <u> 33 百万円</u> 計 598 百万円	※1 トレーディング損益の内訳 株券 303 百万円 債券 742 百万円 その他 <u> - 百万円</u> 計 1,046 百万円 ※2 金融収益の内訳 信用取引収益 80 百万円 有価証券貸借取引収益 0 百万円 受取配当金 - 百万円 受取債券利子 0 百万円 受取利息(預金) 0 百万円 その他の金融収益 <u> 2 百万円</u> 計 83 百万円 ※3 金融費用の内訳 信用取引費用 26 百万円 有価証券貸借取引費用 0 百万円 支払債券利子 - 百万円 支払利息 1 百万円 その他の金融費用 <u> 7 百万円</u> 計 34 百万円 ※4 取引関係費の内訳 支払手数料 182 百万円 取引所・協会費 24 百万円 通信・運送費 176 百万円 旅費・交通費 43 百万円 広告宣伝費 15 百万円 交際費 <u> 21 百万円</u> 計 463 百万円

(自 平成 27 年 4 月 1 日 至 平成 28 年 3 月 31 日)	(自 平成 28 年 4 月 1 日 至 平成 29 年 3 月 31 日)
<p>※5 人件費の内訳</p> <p>役員報酬・従業員給料 1,248 百万円 賞与引当金繰入・ 123 百万円 株式給付費用 歩合外務員報酬 20 百万円 退職給付費用 74 百万円 福利厚生費 186 百万円 その他 29 百万円</p> <hr/> <p>計 1,683 百万円</p> <p>※6 不動産関係費の内訳</p> <p>不動産費 226 百万円 器具・備品費 83 百万円</p> <hr/> <p>計 310 百万円</p> <p>※7 事務費の内訳</p> <p>事務委託費 407 百万円 事務用品費 12 百万円</p> <hr/> <p>計 420 百万円</p> <p>※8 租税公課の内訳</p> <p>固定資産税 3 百万円 消費税 1 百万円 外形標準課税 24 百万円 その他 1 百万円</p> <hr/> <p>計 30 百万円</p> <p>※9 その他の内訳</p> <p>営業資料費 27 百万円 水道光熱費 10 百万円 自動車燃料費 6 百万円 その他 43 百万円</p> <hr/> <p>計 87 百万円</p>	<p>※5 人件費の内訳</p> <p>役員報酬・従業員給料 1,184 百万円 賞与引当金繰入・ 51 百万円 株式給付費用 歩合外務員報酬 17 百万円 退職給付費用 62 百万円 福利厚生費 175 百万円 その他 11 百万円</p> <hr/> <p>計 1,503 百万円</p> <p>※6 不動産関係費の内訳</p> <p>不動産費 222 百万円 器具・備品費 81 百万円</p> <hr/> <p>計 304 百万円</p> <p>※7 事務費の内訳</p> <p>事務委託費 386 百万円 事務用品費 11 百万円</p> <hr/> <p>計 397 百万円</p> <p>※8 租税公課の内訳</p> <p>固定資産税 3 百万円 消費税 1 百万円 外形標準課税 25 百万円 その他 1 百万円</p> <hr/> <p>計 31 百万円</p> <p>※9 その他の内訳</p> <p>営業資料費 31 百万円 水道光熱費 10 百万円 自動車燃料費 6 百万円 その他 35 百万円</p> <hr/> <p>計 82 百万円</p>

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度（自 平成 27 年 4 月 1 日 至 平成 28 年 3 月 31 日）

(1) 発行済株式に関する事項

(単位：千株)

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	35,659	3,841	—	39,500

(2) 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

(3) 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当事業年度末残高(百万円)
			当事業年度期首	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末	
提出会社	第2回新株予約権	普通株式	2	—	2	—	—
合計			2	—	2	—	—

(4) 配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	493百万円	12円50銭	平成28年 3月31日	平成28年 6月30日

当事業年度（自 平成 28 年 4 月 1 日 至 平成 29 年 3 月 31 日）

(1) 発行済株式に関する事項

(単位：千株)

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	39,500	—	—	39,500

(2) 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

(3) 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項
該当事項はありません。

(4) 配当に関する事項
配当金支払額ははありません。

2. 借入金の主要な借入先及び借入金額

(単位:百万円)

(平成28年3月31日現在)

借入先の氏名又は名称	種類	借入金額
日本証券金融株式会社 他(注1)	信用取引借入金	1,667
株式会社あかつき本社	その他借入金	1,500

(注1) 廣田証券株式会社からの借入金18万円を含めております。

(平成29年3月31日現在)

借入先の氏名又は名称	種類	借入金額
日本証券金融株式会社 他(注1)	信用取引借入金	3,957
株式会社あかつき本社	その他借入金	550

(注1) 廣田証券株式会社からの借入金109万円を含めております。

3. 保有する有価証券(トレーディング商品に属するものとして経理された有価証券を除く。)の取得価額、時価及び評価損益

(1) その他有価証券で時価のあるもの
該当事項はありません。

(2) 売却したその他有価証券
該当事項はありません。

(3) 時価評価されていないその他有価証券の貸借対照表計上額

(単位:百万円)

	平成28年3月期	平成29年3月期
固定資産		
投資有価証券(株式)	115	116
投資有価証券(その他)	48	19

4. デリバティブ取引(トレーディング商品に属するものとして経理された取引を除く。)の契約価額、時価及び評価損益

該当事項はありません。

5. 財務諸表に関する会計監査人等による監査の有無

当社は、会社法第436条第2項第1号の規程に基づき、平成28年3月期の計算書類については新日本有限責任監査法人、平成29年3月期の計算書類については海南監査法人の監査を受けております。

IV. 管理の状況

1. 内部管理の状況の概要

内部管理部門の組織と主な業務内容

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

統括する組織	業務を担当する組織	主な業務分掌
コンプライアンス本部 ・ 内部管理統括 ・ 証券関係法令	監査部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社内監査に関する事項 ・ 苦情・紛争処理に関する事項 ・ 外部検査等の立合いに関する事項 ・ 残高照合に関する事項 ・ 取引報告書、取引残高報告書の送付に関する事項 ・ 口座抹消の処理に関する事項 ・ 反社会勢力との関係遮断への対応に関する事項 ・ ペナルティ関係の管理に関する事項 ・ 主務官庁等に対する届出等に関する事項 ・ その他、業務監査に関する事項
	コンプライアンス部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令遵守態勢の総括に関する統括 ・ 顧客管理に関する事項 ・ その他、コンプライアンスに関する一切の事項
	売買審査室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有価証券の売買その他取引等に関する事項 ・ 役職員の有価証券取引に関する事項 ・ 内部者取引に関する事項 ・ 顧客管理に関する事項 ・ 自己及び顧客の売買等に関する事項 ・ その他、売買審査に関する一切の事項
	法務審査室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務上の法律問題に関する事項 ・ 契約書等重要文書の審査に関する事項 ・ その他、法務に関する一切の事項

2. 分別管理等の状況

(1) 金融商品取引法第43条の2の規程に基づく分別管理の状況

①顧客分別金信託の状況

(単位：百万円)

項目	平成28年3月31日現在の金額	平成29年3月31日現在の金額
直近差替計算基準日の顧客分別金必要額	3,764	5,322
顧客分別金信託額	3,775	5,500
期末日現在の顧客分別金必要額	3,650	4,980

(2) 有価証券の分別管理の状況

イ 保護預り等有価証券

有価証券の種類		平成28年3月31日現在		平成29年3月31日現在	
		国内証券	外国証券	国内証券	外国証券
株券	株数	173,935千株	531千株	146,745千株	658千株
債券	額面金額	4,218百万円	21,373百万円	4,002百万円	12,348百万円
受益証券	口数	60,263百万口	0百万口	56,676百万口	0百万口
その他	額面金額	—	19,624百万円	—	41,137百万円

ロ 受入保証金代用有価証券

有価証券の種類		平成28年3月31日現在	平成29年3月31日現在
		数量	数量
株券	株数	8,157千株	4,609千株
債券	額面金額	—	—
受益証券	口数	2,160百万口	938百万口
その他	数量	—	—

ハ 管理の状況（平成 29 年 3 月 31 日現在）

（有価証券の管理方法）

顧客の有価証券は、法令を遵守して下記のように分別管理しております。

有価証券の種類	会社の管理形態
国内の取引所金融商品市場に上場されている転換社債型新株予約権付社債券、投資証券、受益証券及び出資証券	<p>① 国内の取引所金融商品市場に上場されている転換社債型新株予約権付社債券（転換社債券を含む。以下同じ。）、投資証券、受益証券及び出資証券（以下「国内上場証券」という。）については、原則として、証券保管振替機構（以下「機構」という。機構から委託を受けた者を含む。以下同じ。）において、帳簿等により当社の固有財産である有価証券その他の顧客有価証券以外の有価証券（以下「固有有価証券等」という。）と顧客有価証券とを区分管理し、混蔵して保管しております。顧客有価証券については、当社の帳簿等により各顧客の持分が直ちに判別できるよう管理しております。ただし、顧客の申し出等により機構へ再委託しない国内上場証券については、株式会社だいこう証券ビジネスにおいて、固有有価証券等の保管場所と明確に区分し、顧客有価証券についてどの顧客の有価証券であるかが直ちに判別できる状態で保管しております。</p> <p>② 顧客有価証券について、顧客の指示により転換社債型新株予約権付社債券の新株予約権の行使（転換請求を含む。）のため、発行会社（株主名簿管理人を含む。以下同じ。）へ提供したものについては、当該銘柄、数量及び提供先が委任顧客毎に直ちに把握できるよう当社の帳簿等により適宜管理しております。</p>
国内上場外国有価証券	国内上場外国有価証券については、原則として、機構において、帳簿等により固有有価証券等と顧客有価証券とを区分し、管理又は混蔵して保管しております。顧客有価証券については、当社の帳簿等により各顧客の持分が直ちに判別できるよう管理しております。
振替法に基づく振替決済制度において取り扱う社債、株式等	<p>① 国債については、振替法の規定に基づき、日証金信託銀行において、固有有価証券等と顧客有価証券の口座を明確に区分し、顧客有価証券については、当社の振替口座簿により、各顧客の持分を直ちに判別できる状態で管理しております。</p> <p>② 社債、株式等（①に規定する国債を除く。）については、振替法の規定に基づき、原則として、機構において、固有有価証券等と顧客有価証券の口座を明確に区分し、顧客有価証券については、当社の振替口座簿により、各顧客の持分を直ちに判別できる状態で管理しております。</p>

<p>転換社債型新株予約権付社債券及び3に規定する有価証券以外の国内債券及び新株予約権証券等</p>	<p>原則として、株式会社だいこう証券ビジネスにおいて、固有有価証券等と顧客有価証券の保管場所を明確に区分し、顧客有価証券に係る各顧客の持分が当社の帳簿等により直ちに判別できる状態で保管しております。ただし、大券で発行された証券及び株式ミニ投資など、単一券面を自己と顧客とが共有することとされており、固有有価証券部分と顧客有価証券部分について明確に保管場所の区分ができないものについては、当社の帳簿等により、その保管場所を明らかにするとともに、固有有価証券分と顧客有価証券分とを区分し、顧客有価証券に係る各顧客の持分が直ちに判別できるよう管理しております。</p>
<p>投資信託受益証券</p>	<p>原則として、機構において混蔵して保管しております。この場合において、固有有価証券等と顧客有価証券の保管場所を明確に区分させ、顧客有価証券に係る各顧客の持分については、当社の帳簿等により直ちに判別できるよう管理しております。ただし、単一券面を自己と顧客とが共有することとなった場合など、固有有価証券部分と顧客有価証券部分について明確な保管場所の区分ができないものについては、当社の帳簿等により、その保管場所を明らかにするとともに、固有有価証券分と顧客有価証券分とを区分し、顧客有価証券に係る各顧客の持分が直ちに判別できるよう管理しております。</p>
<p>累積投資商品</p>	<p>累積投資契約に基づき、単一券面を当社と当社の顧客とが共有している株券、債券及び受益証券等は、当社の帳簿等によりその保管場所等を明らかにし且つ他の有価証券と区分して保管又は管理しております。この場合において、当社の帳簿等により、固有有価証券等と顧客有価証券とを区分し、顧客有価証券に係る各顧客の持分が直ちに判別できるよう管理しております。</p>
<p>海外の保管機関で保管又は管理されている有価証券</p>	<p>海外の保管機関において、別に定める「海外カストディの概要」のとおり口座区分などの方法により、固有有価証券等と顧客有価証券とを区分させ、顧客有価証券に係る各顧客の持分は、当社の帳簿等により直ちに判別できる状態で管理しております。ただし、上記のとおり保管機関において顧客有価証券に係る持分が判別できる状態で保管又は管理させることができない場合には、当社の帳簿等により、固有有価証券分と顧客有価証券分とを区分し、顧客有価証券に係る各顧客の持分が直ちに判別できるよう管理しております。</p>

(2) 金融商品取引法第 43 条の 2 の 2 の規程に基づく区分管理の状況
該当事項はありません。

(3) 金融商品取引法第 43 条の 3 の規定に基づく区分管理の状況
該当事項はありません。

V. 連結子会社等の状況に関する事項

1. 企業集団の構成

当社は持株会社である株式会社あかつき本社の完全子会社であります。

2. 子会社等の商号、所在地、資本金の額、事業の内容等

該当事項はありません。